

## 大丈夫か？ JR

写真上は名古屋駅の新幹線上りホームに停まっている車両。15日の夕方に撮ったものだ。

博多発東京行き「のぞみ34号」の台車に亀裂が見つかり、ホームに停車したままになっている車両。次の写真は16日の朝日新聞夕刊による。亀裂が見つかった13号車の台車を車両から外す作業員、新幹線から取り外されトラックに積み込まれる台車。

16日朝刊は「のぞみ亀裂 その時何が」と大きく伝える。リードから「最高時速300kmで走る新幹線の台車に亀裂が見つかった。放置して走り続ければ脱線など大事故につながりかねない。原因は何なのか。国の運輸安全委員会は新幹線で初めての重大インシデントとして調査を始めた。安全が売りだった「日本ブランド」。信頼失墜を憂える声も漏れる。

専門家は「小さな亀裂でも走れば大きくなり、破断につながる。やがて重量を支えられず、高い確率で脱線する」と指摘する。乗客約1千人を乗せた新幹線が、もし脱線したらと考ただけでも恐ろしくなる。乗務員が異臭確認後3時間運転していたことも、新幹線の安全面から、きわめて重大な問題だと言わざるをえない。

これだけではない。15日夕刊によると、名古屋発東京行きの「こだま684号」が13日、名古屋駅のホームでドアを開けず、乗客約200人を乗せないまま発車していた。JR東海によると、発車時には最後尾に乗り込む車掌が、ドアを開けてから運転士と打ち合わせをして、打ち合わせ後にドアを閉める手順だが、運転士がドアを開閉済みと勘違いしたのが原因とみられる。

新幹線だけでなく、在来線でも事故が続く。12日午前8時ごろ、JR東海道線枇杷島駅近くで、岐阜発名古屋行き上り快速電車が異常音で停車した。JR東海が調べたところ、同駅に停車していた豊橋発岐阜行き下り普通電車のパンタグラフ3基が損傷し、同駅一名古屋駅間約3キロの架線をつるす金具約100個が外れていることが判明。同線は約9時間半にわたり一部区間の上下線で運転見合わせとなり、通勤・通学などの乗客に大きな影響が出た。

さらに16日午前、JR京浜東北線の鶴見一川崎間で架線が切れるトラブルが発生。近くを走っていた電車3本が緊急停車した。これも7時間近く運転を見合わせ大混乱に。いったいJRはどうなっているのか。厳しく見つめていきたい。



(2017年12月18日)